

《教育目標》 自律・友愛・創造

「自らを律し、なかまを大切に、創造性豊かな人」

自らを鍛え、責任ある行動をとり、互いの立場を認め合い、ともに支え合い、高まりあう「なかまづくり」ができ、自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

本校のHP…<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=201407>

★「生きる力」を伸ばし、「自信と誇りにみちた生徒」を育成していく中で、生徒一人ひとりが持てる力を発揮し、各自の自己評価を高めるために創意工夫ある教育活動を実践する。(輝く松原づくり)



日	曜	行 事 等
1	土	
2	日	福神社祭礼の御輿担ぎ体験
3	月	5, 6 限体育大会前日準備
4	火	体育大会
5	水	体育大会予備日
6	木	5, 6 限壬生狂言鑑賞 テスト前部活動休止 (～13日)
7	金	コミプラダンス鑑賞 (1年) 朱三小 給食×切 英検 放課後学習会
8	土	土曜学習会
9	日	
10	月	体育の日
11	火	放課後学習会
12	水	放課後学習会
13	木	第3回定期テスト (～14日)
14	金	2, 3年確認プロ 5, 6 限全学年身体計測 職員会議
15	土	
16	日	
17	月	Ⅱ期時間割開始 2, 3年確認プロ
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	時代祭
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	3, 4 限 京友禅 (1年) 5, 6 限生徒会役員選
27	木	
28	金	5, 6 限国際交流 (3年) 進路相談会 3年 (～11月7日)
29	土	
30	日	
31	月	

10月の
行事予定

平成28年9月26日発行

文責 宮田 功

「世界が障害者から学ぶことができる10のこと」

今年8月、東京の地下鉄の駅で盲導犬を連れた目の不自由な男性が、ホームから転落して死亡するという、なんとも痛ましい事故が起きました。「なんとかならなかったのか。」と心が苦しくてたまりません。一方、9月には、リオパラリンピックが開かれ、障害のある方が懸命に競技している姿を見て、心震わせた人も多いと思います。

これからの日本社会が目指していかなければならない重要な事柄に、「共生社会」の実現があります。「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会です。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会とも言えます。これからを担う皆さんは、このような社会の実現に取り組むことになります。

話は変わりますが、私は10年ほど前、全盲の男子生徒の入学から卒業までの3年間続けて、担任を受け持ちました。入学前の1月から、校内の危ないところの点検や点字ブロックの設置を行い、入学式をむかえるまでに保護者と本人は、中学校の見学や入学後の学校生活についての相談に何度も来られました。また、本人が1人で登校できるように、登校訓練も重ねました。

こうして中学校生活は順調に送れるはずでしたが、クラスに1人だけ全盲生徒がいる学級では、何度もトラブルが起きました。ただ、私にとって、これは教師として人間として、掛け替えのない素晴らしい経験であったと思っています。同じクラスにいた生徒たちも、彼とともに過ごす

《裏に続きます》

11月の予定

8～11日…2年チャレンジ体験

11日…1年生「ファイナンスパーク学習」

14～18日…公開授業週間

15日…育成合同運動会

28～30日…第4回定期テスト

ことを通して、今まで受け持った学級の生徒に比べて、個々の人格が一層早く成長していくような実感を得たことを覚えています。さらに、彼は卒業後に、中学校に来て視覚障害のこと、自分の経験や思いを後輩に語ってくれました。

私やこの頃と同級生が得たことを、理解してもらえるように述べていくには、具体的な出来事と結び付けなければならないことから、紙幅の関係上まとめきれません。そこで今回は、米国のミネアポリス在住のコラムニストのティフィニー・カールソンの言葉を載せ、届けたいことの代わりとします。学生るとき、ダイビング中の事故で脊髄損傷を負ったことがきっかけで車イスの生活になり、障害者が楽しく生活するためのニュースサイト「BeautyAbility」を運営している人です。

【ティフィニー・カールソンの「世界が障害者から学ぶことができる10のこと」】

(1) どんな人でも幸せになれる

「幸せか、そうでないかを決めるのは、体ではなく脳だ。」と彼女は言っています。障害があっても不幸だとは限りません。人生の充実度は自分次第だということで、なんだかすっきりと広く視界が開け、希望が湧いてきて嬉しくなる一言です。

(2) 忍耐さえあれば、どんなことも実現できる

障害がある人が頑張っている姿を見ると、自分もやらなきゃと思えてきます。リハビリだったり、訓練だったり、彼らは純粋に夢中になってやっています。不可能に思えても努力次第でなんとかなります。何かにつけ理由をつけて、あきらめてしまう自分もいます。そんな自分とサヨナラしませんか。

(3) アクシデントは他人事じゃない

テレビなどで事故のニュースをみても、皆自分には起こらないと思っています。それが普通ですよ。でも実際に事故は起こるし、亡くなる人もいます。自分や身近な人が被害者や加害者になることだって十分にありえます。常に他人事ではないと感じて、リアルに受け止めることは大事です。

(4) 障害は誰にでも起こりうる

まったくの偶然で、障害と出会うことがあります。自分にダウン症の赤ちゃんが生まれるなんて夢にも思っていないでした。障害は誰にでも起こりうる事で、これを考えるとむやみに非難したり、差別したりできません。色んな人に優しくなれる気がします。

(5) ささいなことで悩む必要はない

病気や障害をもって必死で戦っている人のことを考えると、自分の悩みなんてちっぽけなものに思えてきます。「見たかった映画のチケットが完売した。レストランが満席で2時間まった。」⇒「それが何だ」と笑い飛ばせると彼女は書いています。

(6) 人と違うことはチャンスだ

人は、他人との違いを嫌い、目立つ事を嫌がります。けれど、他の人との違いがあなたらしさになって、色んな素晴らしい出会いを連れてきてくれることだってあります。個性と受け止めて、考えすぎないことです。「自分が思うほど悪くないことがほとんど」なんだそうです。

(7) 自分は自分。無理して人と合わせる必要はない

「あ〜なんか自分無理しているな」ってことはありませんか。無理して他の誰かになろうとしてもなれないのが人間です。人に合わせなくても自分のペースで生きてみましょう。これも障害のある人から学べる素敵なことだと思います。

(8) 人は外見で判断できない

障害があっても何事かを成し遂げている人はたくさんいます。外見だけで、この人はこういう人だと決めつけてしまうのは、とても残念なことです。その人の中身まで知る努力が大事なのだと思います。

(9) 人生は短い。すべてを受け入れよう

「毎日を悔いのないように楽しむ。」このことを彼女は日々考えているそうです。身体障害が、寿命に影響をおよぼすことは少なくありません。悩むよりも毎日を楽しむ、とてもポジティブになれるメッセージだと思いませんか。

(10) 助けあいは優しさを生む

「アスリートや大統領でも困ったときは助けを呼ぶのだから」困ったときは1人で悩まず、誰かの助けを借りることが正解です。助け合う経験で人は成長し、優しくなれます。困ったときはお互い様の精神は、とても良いことだと思いませんか。

生徒会の小学校訪問

本校生徒会が校下の小学校6年生に、中学校での生活を説明しました。

8月30日…朱雀第三小学校に

9月2日…光徳小学校に



3年生 京町家フィールドワーク

9月5日（月）総合的な学習として、京都の伝統的な住居である京町家へ実際に行き、京都学園大学の協力を得て、その特徴や現状を学習してきました。



2年生 高校めぐり

8月29日（月）に行われました。進路選択にむけての取組で、市バスを使って京都市内にある公立・私立高を三校以上は訪れ、植物園で集合して昼食を取りました。無事に終了しました。

1. 2年生 アートアカデミー

9月9日（金）4限に体育館で実施しました。ゲストティーチャーとして、日本藝術院の上村 淳之様に来校していただき、日本画について教えていただきました。

